

ポストコロナ時代における市民公益活動(事業) についてのアンケート

実施報告書

令和5年4月25日

一般社団法人 SINKa

【第6回】ポストコロナ時代における市民公益活動(事業)についてのアンケート 結果集計

一般社団法人SINKa(代表理事:濱砂清)は休眠預金等活用制度に基づく資金分配団体として市民公益活動団体への支援をしています。更に2023年以降に向けて九州の社会的課題解決に向けて取り組むべく、具体的な支援を進めるために「ポストコロナ時代における市民公益活動(事業)についてのアンケート」を本年2月から3月にかけて実施しました。

結果要約

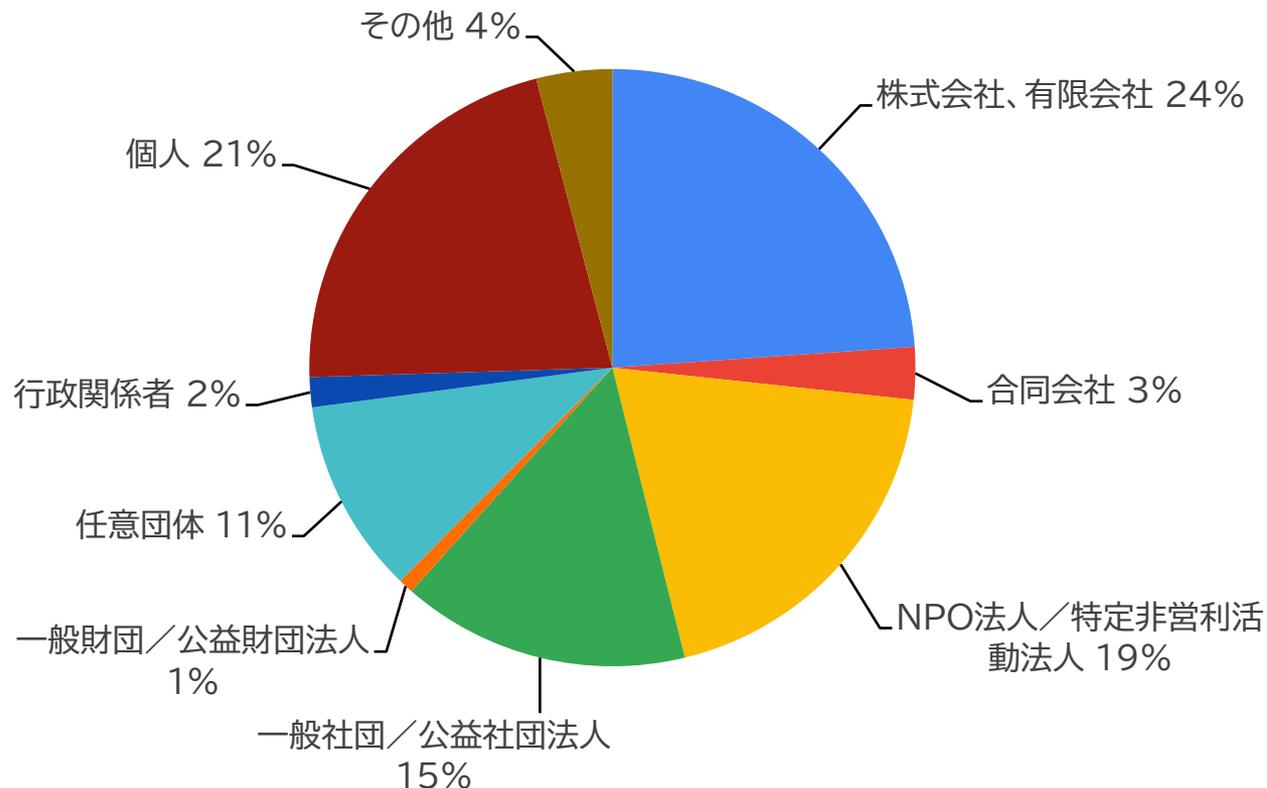
2021年に比べて業績が良化している団体は45%、悪化している団体は19%となり、業績が改善している団体が増加しているものの、佐賀県や大分県のエリア、災害支援や農山漁村振興等の活動では、業績が悪化している団体も多い。活動を継続するために、何らかの助成金を活用している団体が3分の2を超えていることもわかった。休眠預金制度については、58%の団体が活用を望んでいるが、「わからない」団体も27%あり、制度の情報が届いていないと思われる。また休眠預金の助成を希望する金額では、4割近くの団体が300万円未満としており、申請においての課題である。

SINKaで開設している「チャレンジセンター」に欲しい機能については、「人材・組織マッチング」「チャレンジする人と応援する人の出会い」を求める団体が多かった。

調査概要

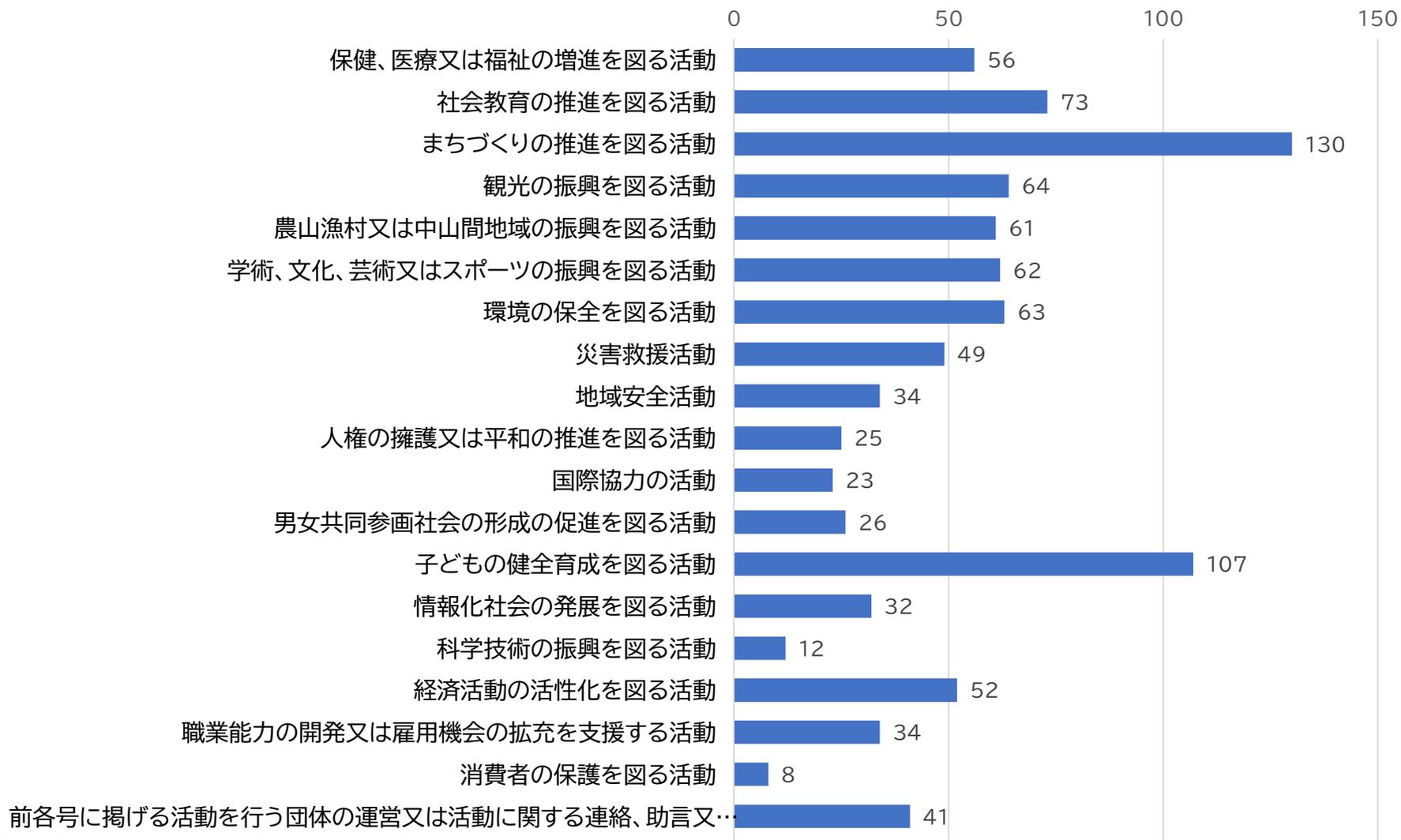
- ◆ 対象:福岡県および九州全域の、NPO法人、一般社団法人、株式会社など地域の課題解決に取り組む組織、および個人
- ◆ 実施期間:2023年2月16日(木)~3月10日(金)
- ◆ 実施方法:Googleフォームへの入力による
- ◆ 周知方法:各団体へのメール送信、SINKaホームページならびにSNS等による依頼(約1,500件)
- ◆ 実施主体:一般社団法人 SINKa
- ◆ 回答総数:249件

Q2. 法人格を教えてください



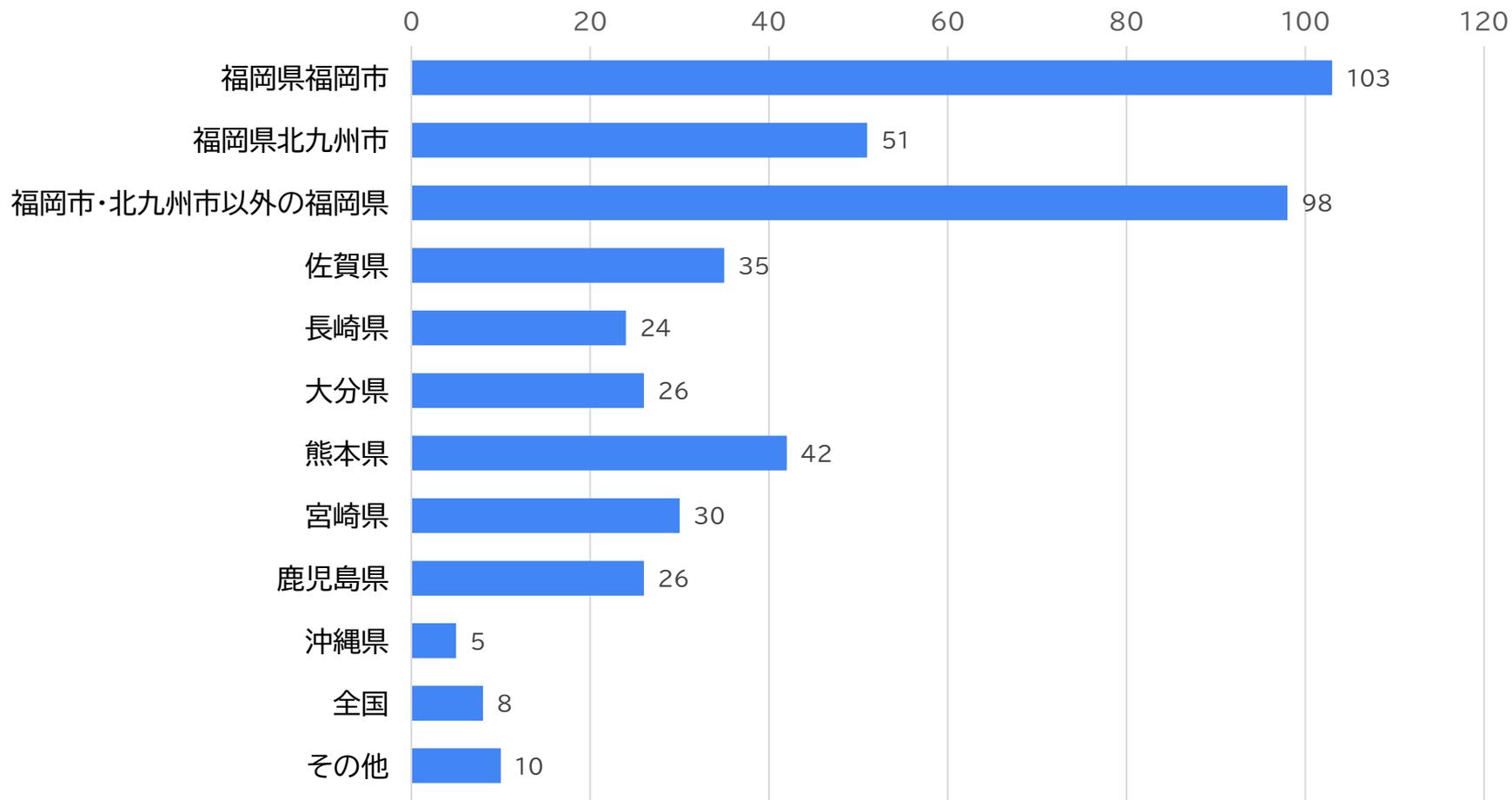
株式会社・有限会社が24%、NPO法人が19%、一般社団・公益社団法人が15%でした。個人が21%あるのは、個人事業主の他に組織に所属しているが個人で活動している、あるいはフリーター等の若い世代も含まれると思われます。

Q3. 現在の活動分野を教えてください(複数回答)



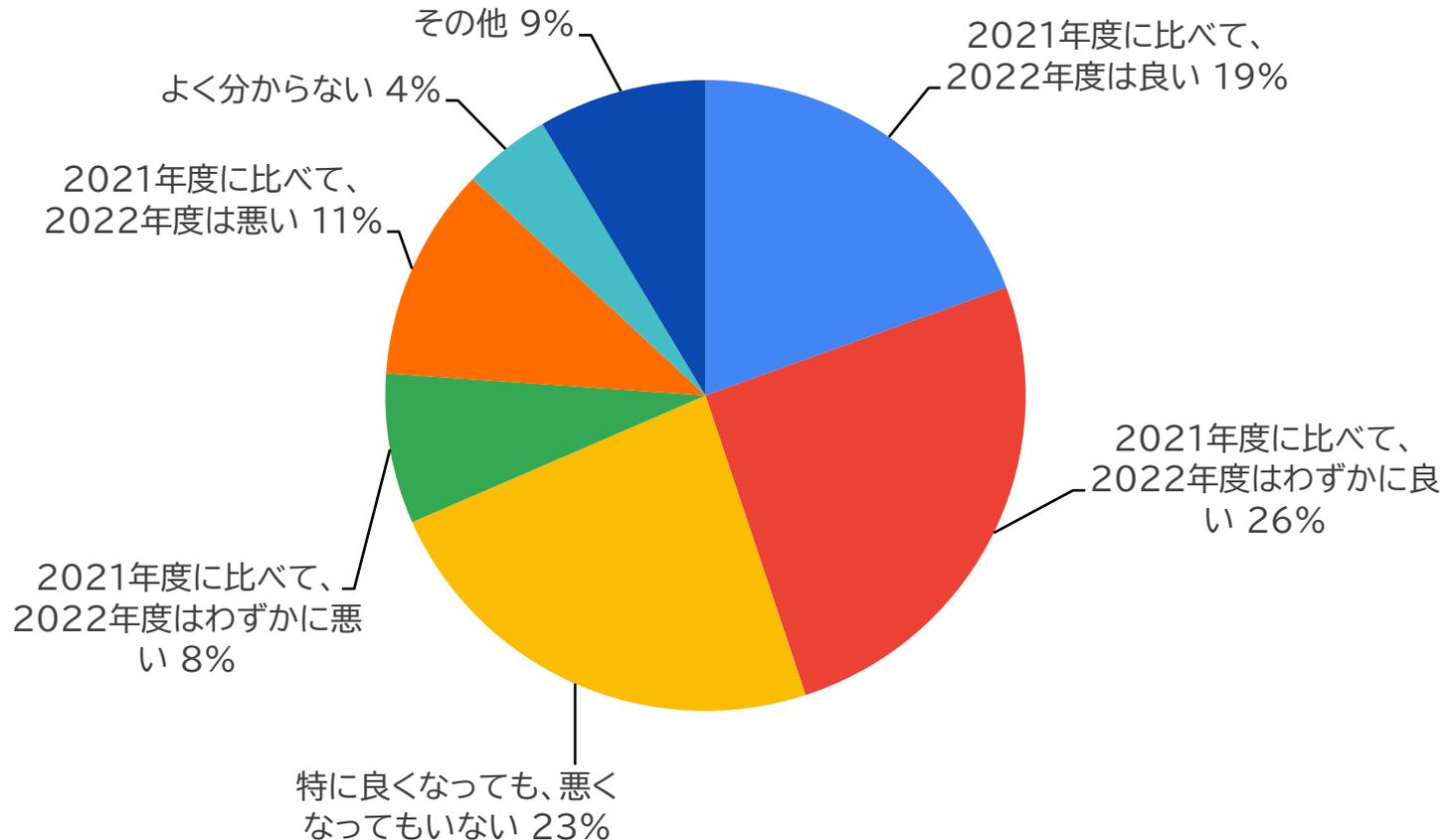
まちづくり、子どもの健全育成の2分野が多く、社会教育、観光振興、環境保全、学術スポーツ、農山漁村振興、保健福祉、経済活性化と続いています。

Q4. 主な活動エリアを教えてください(複数回答)



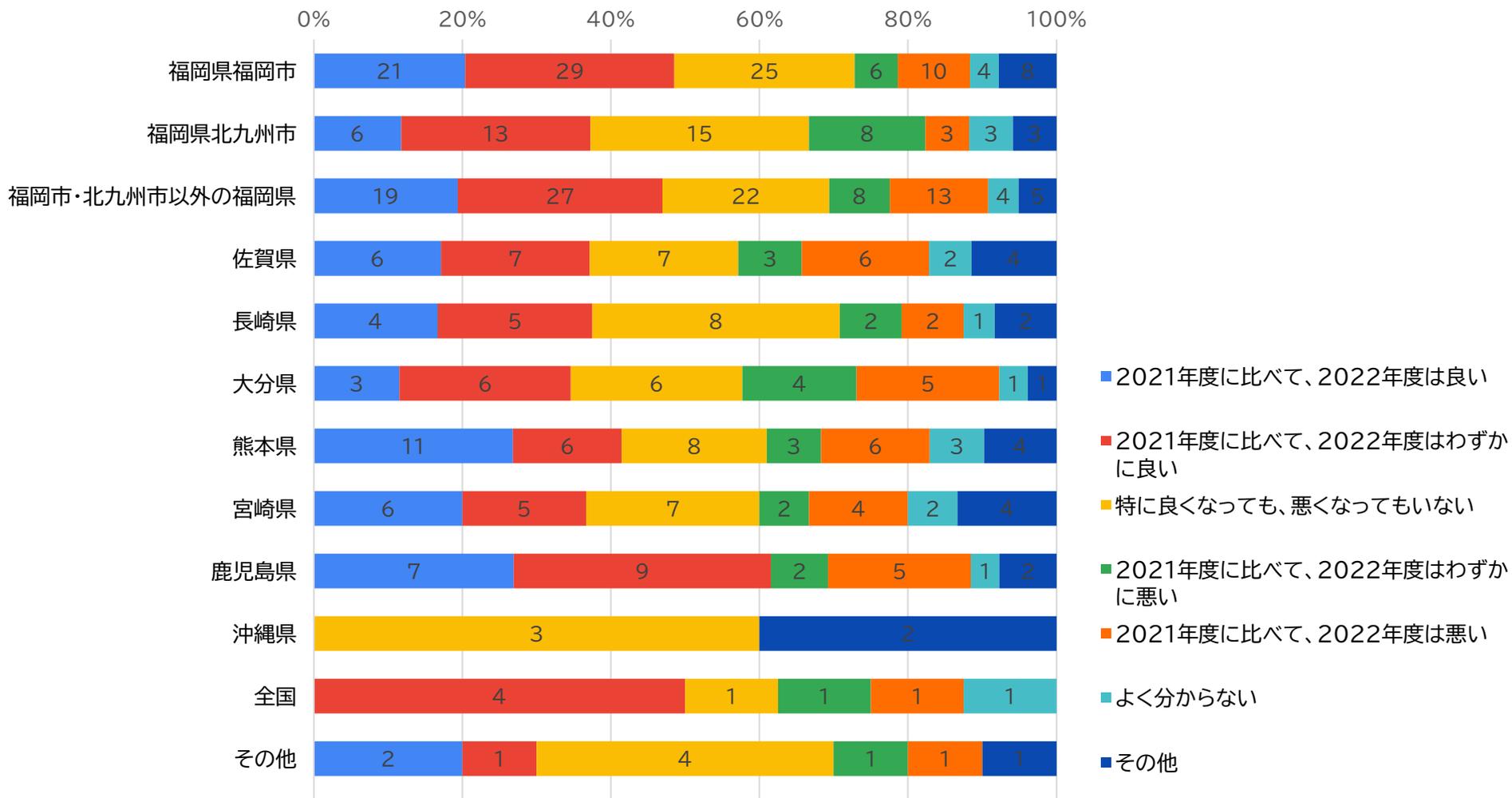
福岡市、北九州市、その他の福岡県内が多く、熊本県、佐賀県と続いています。沖縄県からの回答は5件でした。その他には、海外での活動も含まれています。

Q5. 2021年度に比べて、2022年度の業績はいかがでしたか？ (全体)



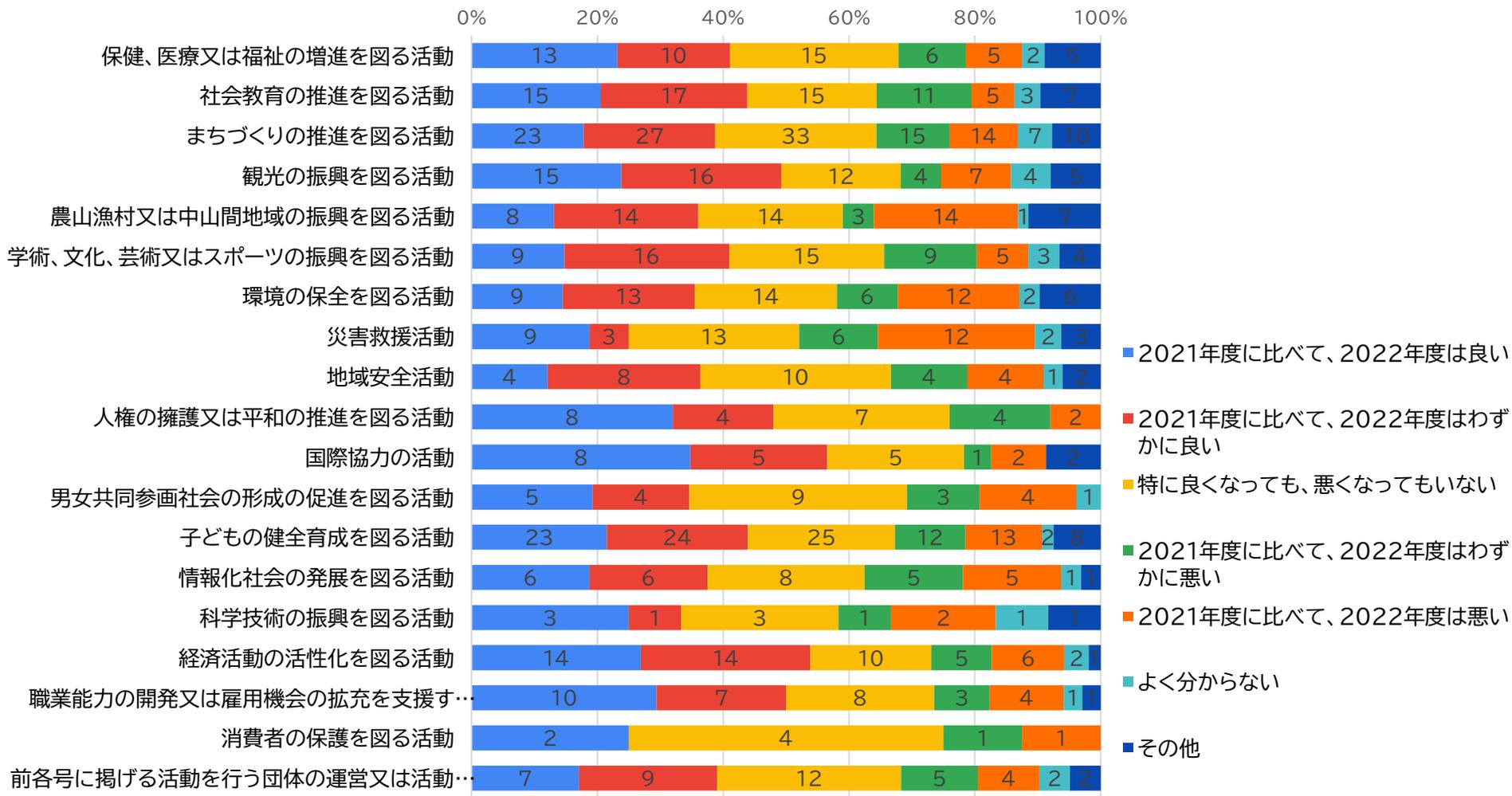
良い、わずかに良いを合わせると45%。悪い、わずかに悪いを合わせると19%でした。特に良くも悪くもなっていない活動も23%ありました。

Q5. 2021年度に比べて、2022年度の業績はいかがでしょう？ (活動エリア別)



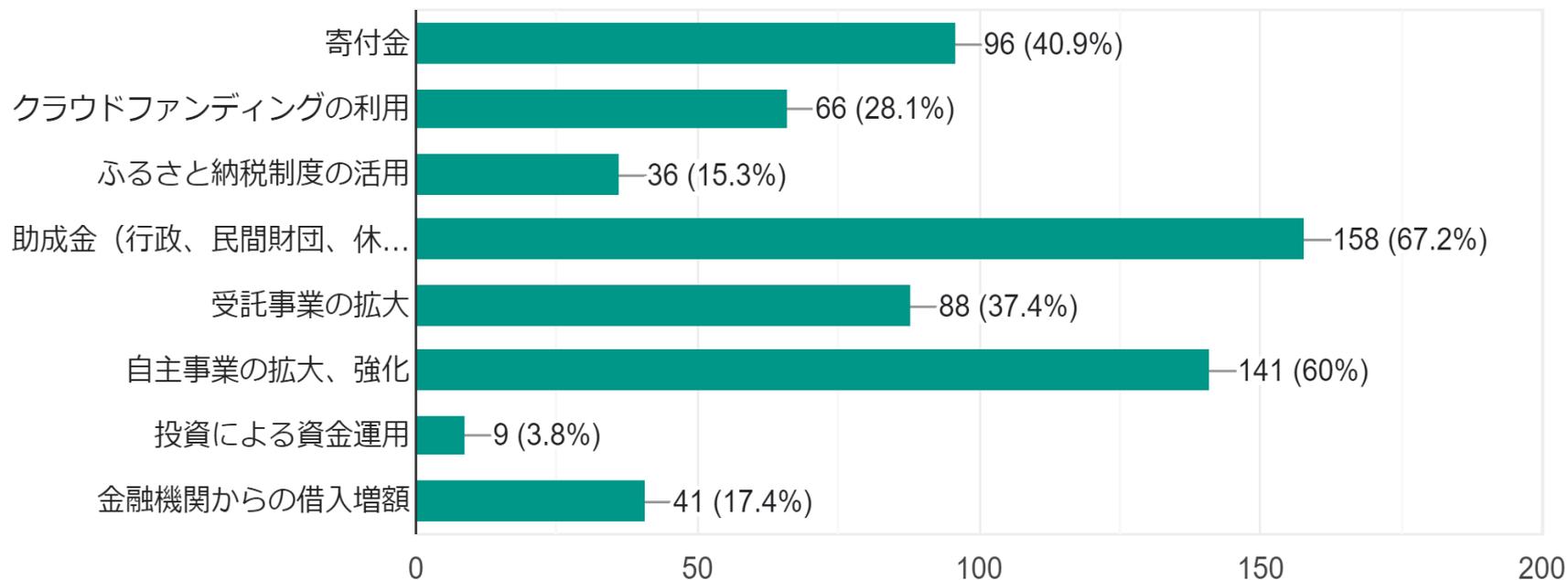
悪化傾向(悪い+わずかに悪い)が多いエリアを見ると、佐賀県、大分県、鹿児島県で多くなっています。ただし、鹿児島県は良い傾向も多いため、個別に詳細を確認する必要があります。

Q5. 2021年度に比べて、2022年度の業績はいかがでしょう？ (活動分野別)



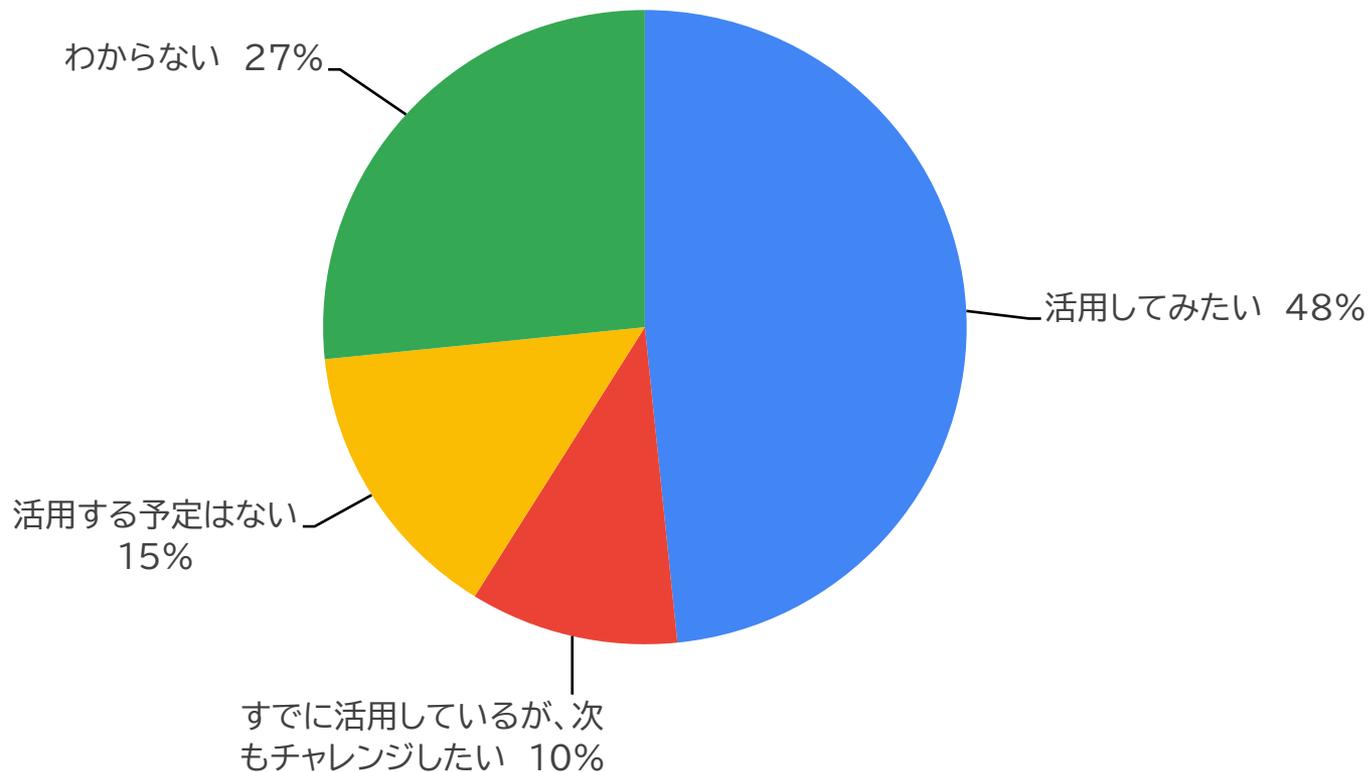
国際協力、経済活性化、観光振興などが良い傾向にあり、災害救援、情報化社会発展、農山漁村振興、環境保全などが悪化傾向にあると言えます。

Q6.事業や活動を継続するために、以下の資金源を採用または検討していますか？(複数回答)



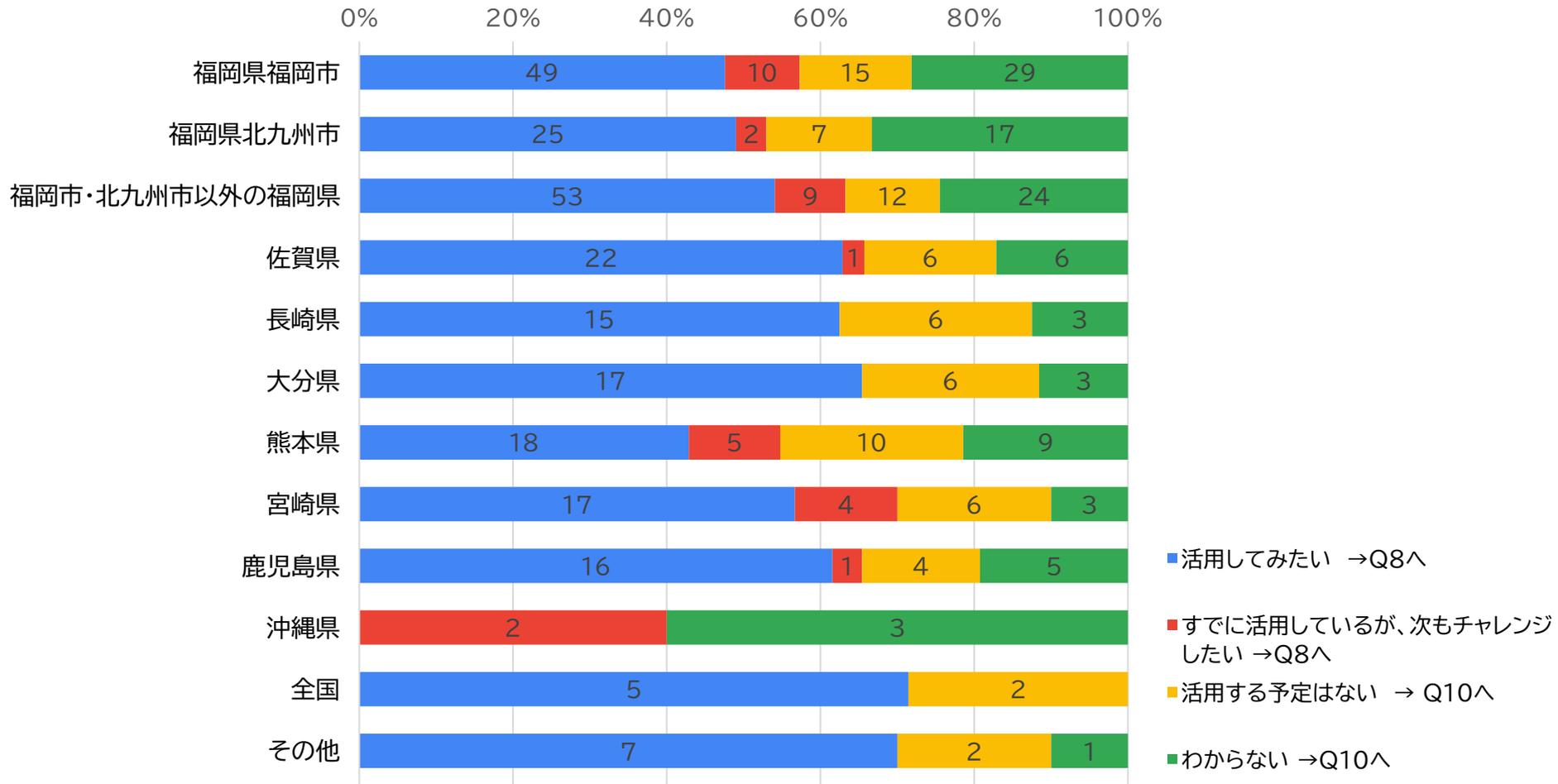
3分の2以上の組織が、何らかの助成金を活用しています。また、自主事業を拡大・強化している組織も6割あります。借入金が増えている組織が約6分の1あることも気になります。投資などの資金運用は、約4%に留まっています。

Q7.休眠預金等活用事業の資金助成 を活用して民間公益活動を実施する
チャンスがあれば、活用してみたいと思いますか？
(全体)



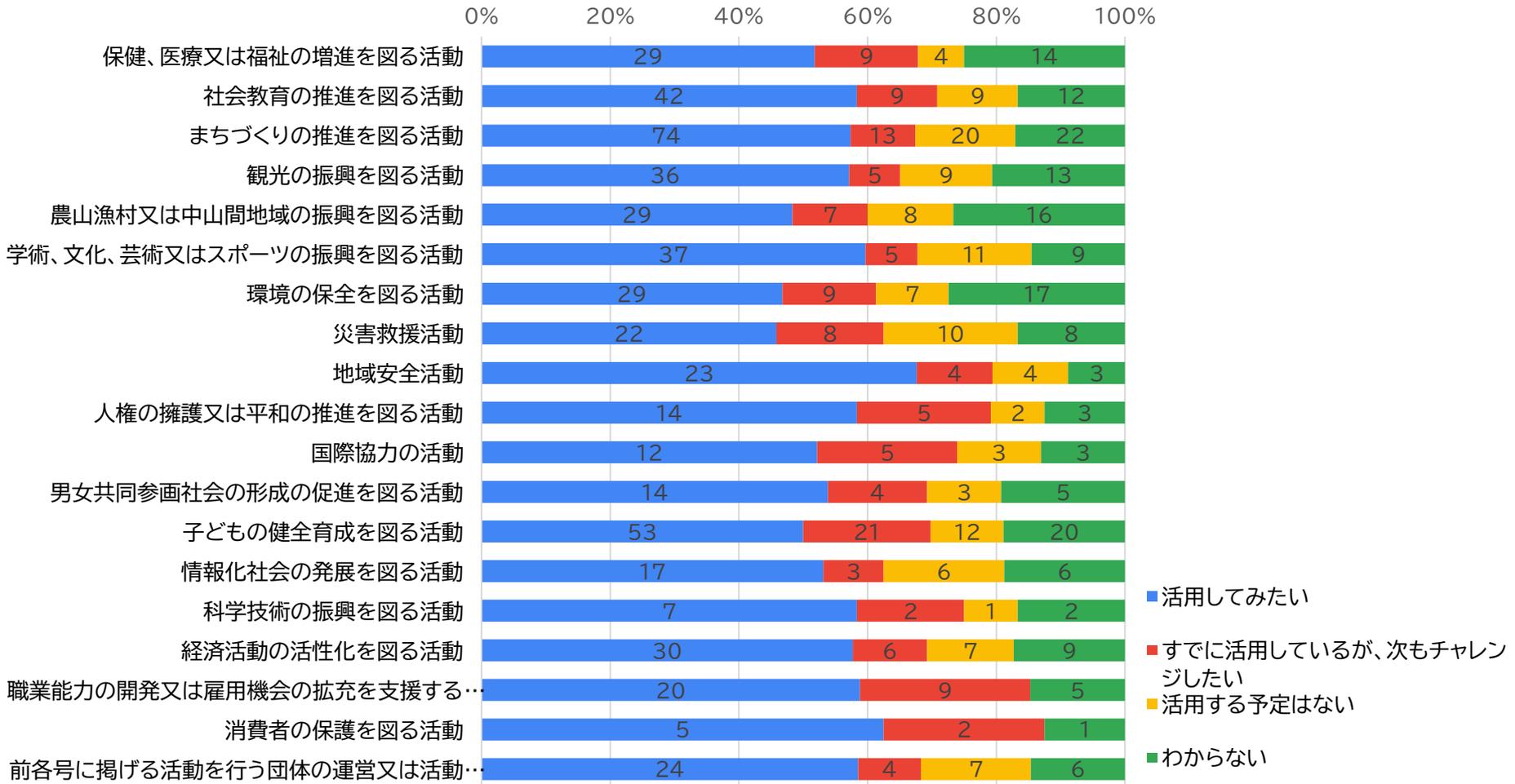
助成金の中で、休眠預金の助成を「活用してみたい」組織が約半数ありました。活用予定のない組織は15%でした。
わからないと回答した組織へは、休眠預金助成の情報が届いていないのかも知れません。

Q7.休眠預金等活用事業の資金助成 を活用して民間公益活動を実施するチャンスがあれば、活用してみたいと思いますか？ (活動エリア別)



大分、佐賀、長崎県が活用意向が高く、熊本県は活用意向が低いようです。
沖縄県は回答数は少ないですが、対象となる助成事業が多いために、既に活用した組織も多いと思われます。

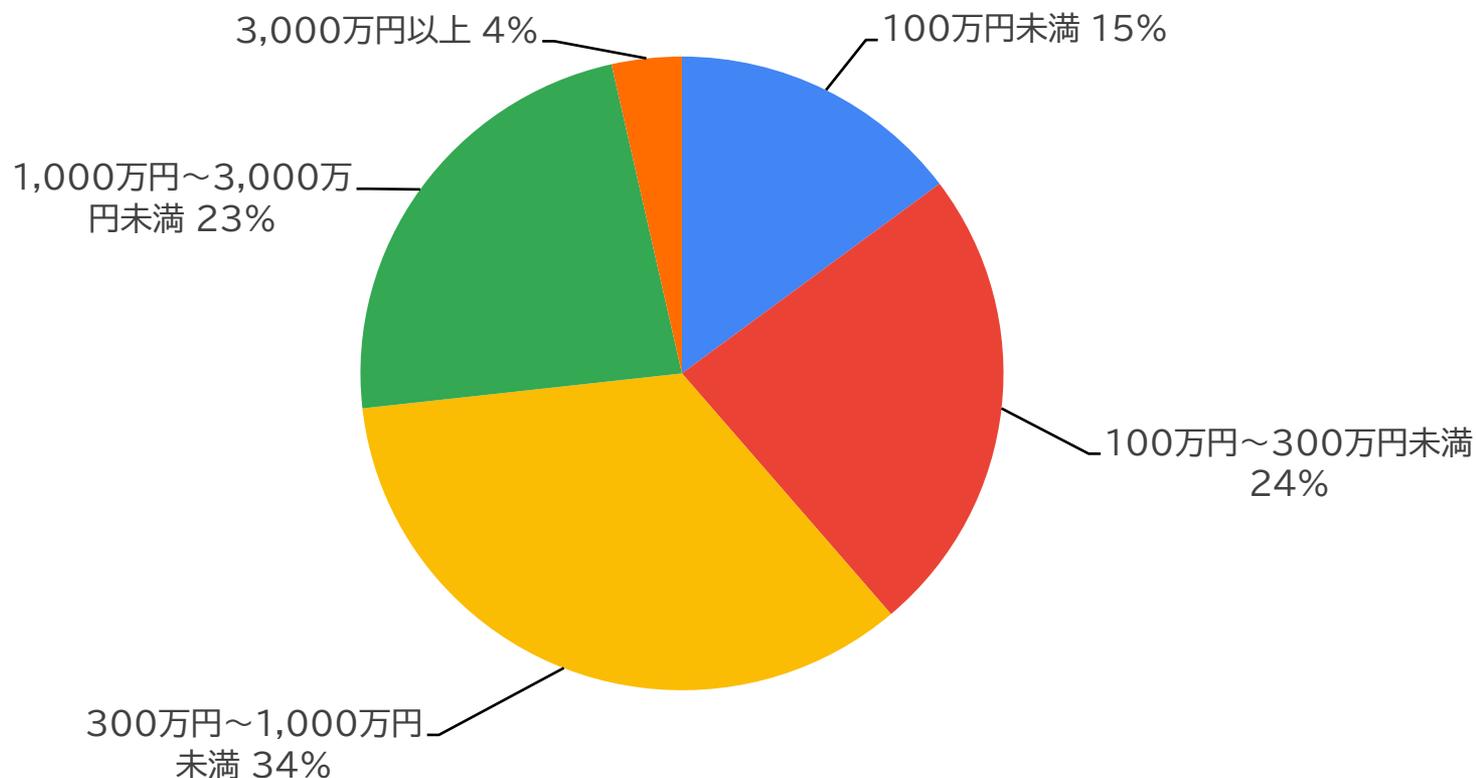
Q7.休眠預金等活用事業の資金助成 を活用して民間公益活動を実施するチャンスがあれば、活用してみたいと思いますか？ (活動分野別)



地域安全、人権・平和、職業能力開発、消費者保護などが活用意向が高くなっています。また、環境保全、保健福祉、農山漁村振興は「わからない」が多く、情報提供が必要と感じます。

Q9.(Q7で活用してみたいと回答の方へ)助成を受ける金額は、1年間あたりの程度を希望されますか？

(全体)

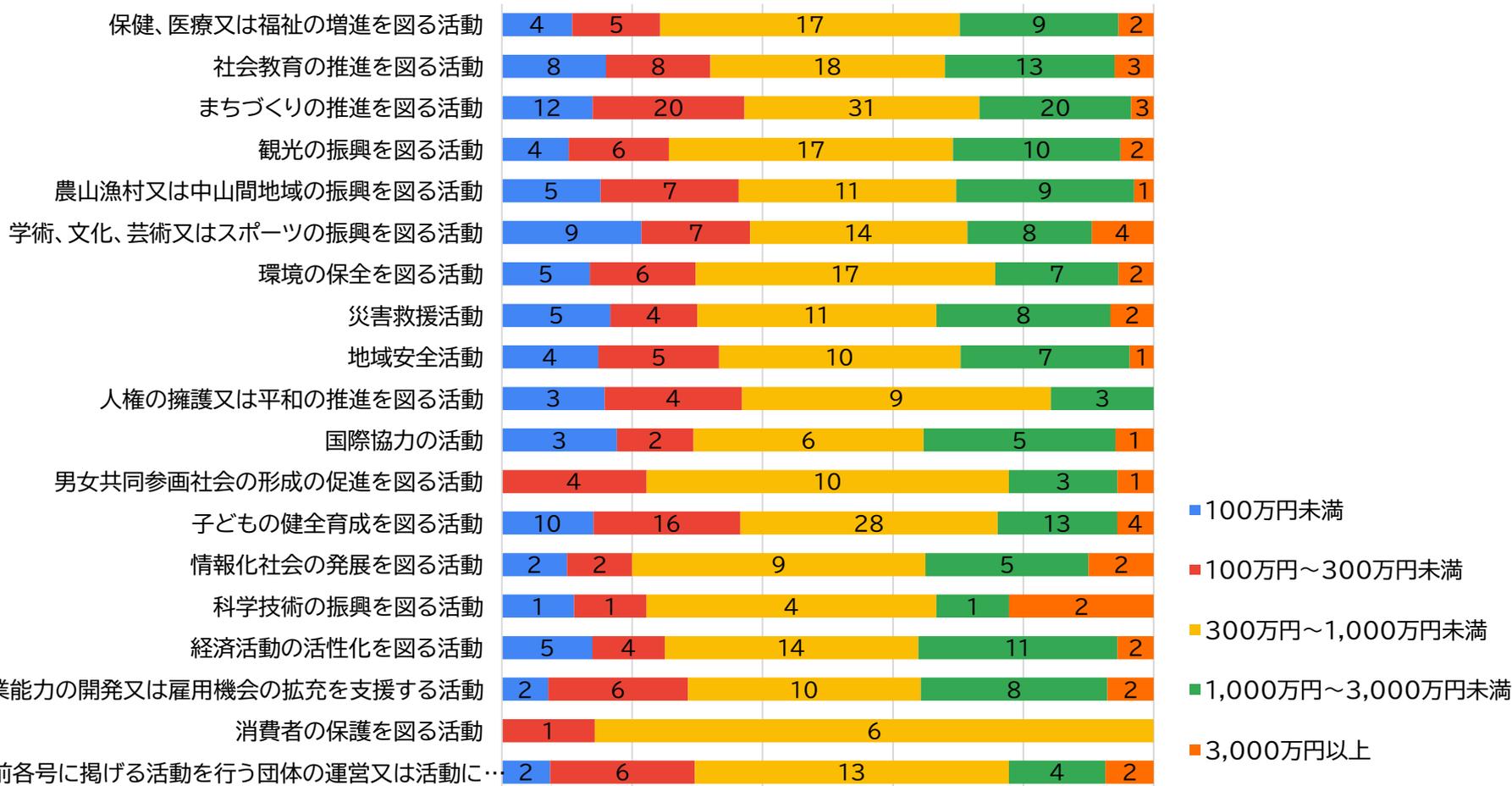


1年間あたり300万円未満との回答が4割弱でした。1000万円未満とみても7割強を占めており、現状の休眠預金事業(1000万円以上が多い)に対する申請の方法を検討する必要がありそうです。

Q9.(Q7で活用してみたいと回答の方へ)助成を受ける金額は、1年間あたりの程度を希望されますか？

(活動分野別)

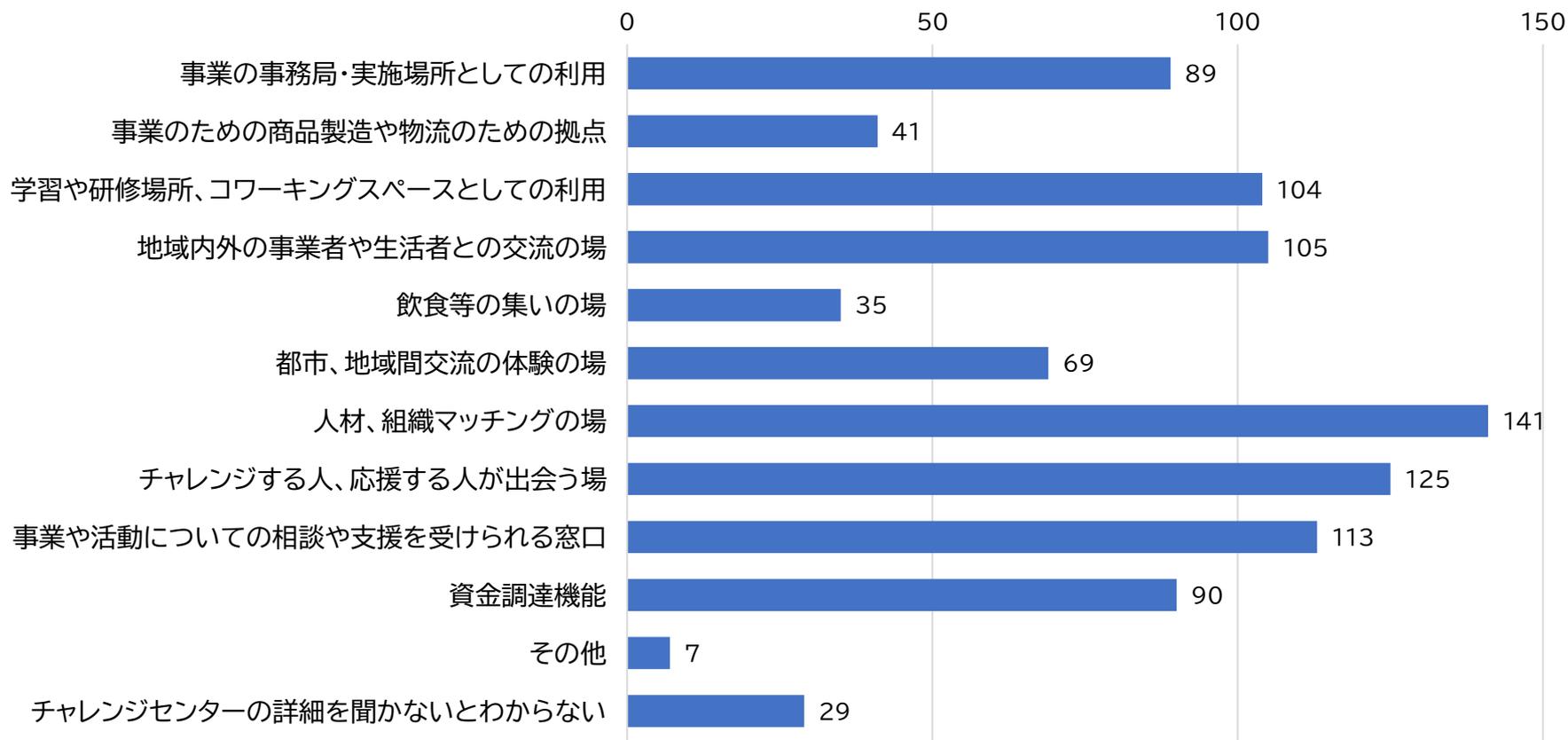
0% 20% 40% 60% 80% 100%



学術・スポーツ、まちづくり、人権・平和、子ども育成などは希望額が低く、3000万円以上の希望は科学技術振興が多い回答でした。

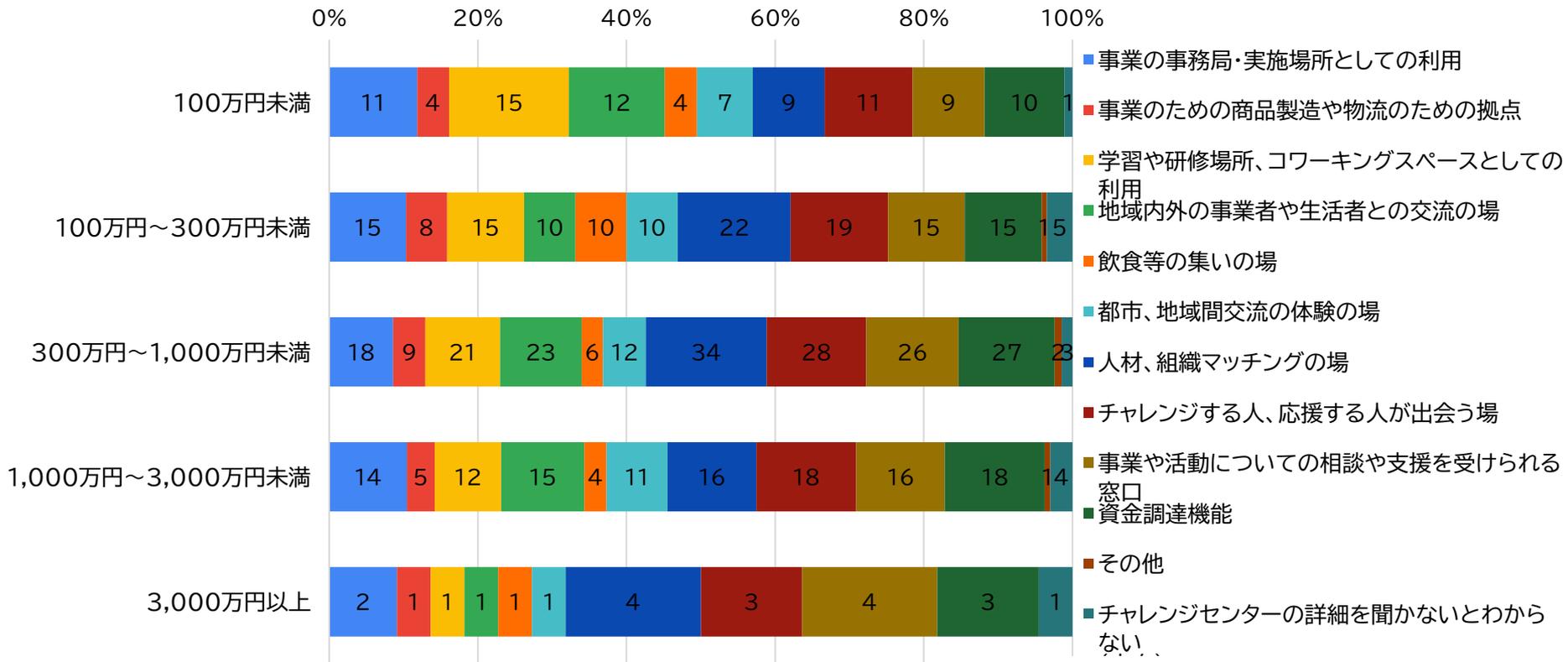
Q10.SINKaでは、休眠預金等活用制度に基づく「SB第3世代による九州位置(地域)価値創造事業」として、点在するソーシャルビジネスを線で結び面として普及するためのプラットフォーム「九州ふくおか市民(公益)チャレンジセンター(市民公益活動・CSOセンター)(仮称)」を開設して動いています。

福岡市内もしくは貴団体の事業エリアに「チャレンジセンター」ができるならば、どのような機能が欲しいと思いますか？(複数回答) (全体)



「人材・組織マッチング」「チャレンジする人と応援する人の出会い」「事業・活動への相談支援」の順に高く、それらに課題を感じている組織が多いものと捉えています。

Q10.SINKaでは、休眠預金等活用制度に基づく「SB第3世代による九州位置(地域)価値創造事業」として、点在するソーシャルビジネスを線で結び面として普及するためのプラットフォーム「九州ふくおか市民(公益)チャレンジセンター(市民公益活動・CSOセンター)(仮称)」を開設して動いています。
 福岡市内もしくは貴団体の事業エリアに「チャレンジセンター」ができるならば、どのような機能が欲しいと思いますか？(複数回答) (助成希望額別)



希望額が小さい組織は「学習場所・コワーキング」の希望が多く、希望額が大きくなると「人材・組織マッチング」や「事業・活動への相談支援」が多くなっています。

本件に関するお問い合わせ先
一般社団法人SINKa
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1丁目3番14号 小榎ビル3F
e-mail:info@sinkweb.net